

ふたばしり

田富中第2学年 学年通信

～青学年全員の挑戦譚～

22.7.20(Wed)
新たな自分に会い夏号

文責：佐野 亮祐 ⑬

私の勉強方法を紹介！

同じ職業でも勉強の仕方は様々です。

～佐野 T の場合～

日常：毎日家庭学習ノートに取り組んでいました。やる内容は自分に足りないと思うことをやっていた。計算問題が多かったです。英語をやる時には英文を声に出して読みながらひたすら書いていました。時にはその量が足りずに、「これでいいのか？」と担任の先生からコメントをもらうこともありました。勉強は自分自身との戦いであることを教えてくれたのだと思います。

テスト前：持っているワークや問題集をすべてやり切ってからテストを受けないと気が済まなかったもので、ひたすらやりました。テストの前日には何もしたくなかったもので、逆算して取り組みをしていました。中間テストは2週間前から、期末テストは3週間前から。最初の1週間はどの教科も授業のノートを自主学習ノートに丸写しして授業を思い出す作業をしました。残りの日々はワークや問題集に取り組みました。できる問題はいつやってもできるので、できなかった問題、つまづいた問題を繰り返しやりました。特に理科が苦手だったので、理科を一番勉強しました。基本的に早め早めに取り組み、あとで楽をしたい性格なので課題をやり切れずにテストを受けることはありませんでした。

～志村 T の場合～

日常：とにかく授業をしっかり聴いてノートを取りました。宿題はやってないとソワソワするタイプだったので、帰宅→宿題で早めに終わらせていました。

テスト前：1・2年生の頃はテスト範囲が配られてからよーいどんの状態でした。最初の1週間は提出物に取り組みました。提出物に終わりが見えてくると、テスト範囲の授業すべてのノートを、ルーズリーフに写していました。その時に授業を思い出すのですが、わからなかったことは教科書・資料集等使いながら+αを書き込んでノートを作りました。(国社理：ノートを写しながら理解する、英：ノートを写しながら理解する+単語練習+教科書丸暗記)今思えば、数学を除く教科はこれで丸暗記ができていたので事足りていましたが、数学は練習量が足りず、難しい～！と思うことが多かったです。3年生の頃は、その作ったノートを違うノートにもう一度書き起こしたり、1年生のころからの自己診断テストがとってあったので、それを解きなおしたりして苦手をつぶしていました。

勉強は変わる。チャレンジの夏

～山田 T の場合～

英語と数学は、毎日ワークをやりまくる。できない問題は、何度もやり直す。社会と理科はまとめノートをつくる。毎日ひたすら、2～3時間、できるまで繰り返し学習する。自分のタイミングで勉強したいので、塾には行きません。塾に行かないために、授業はちゃんと受けていました。

～高次 T の場合～

授業では、ノートをとる際に重要語句をノートの右側に書いていました。テスト勉強の時は、教科書を見てテスト範囲のところを1度目は目を通して、2度目は重要語句にラインマーカーを引き、3度目はその重要語句を説明している文章に違う色のマーカーを引いて確認していました。他には、ワークを何度か解いた後に、友人と何問できるか問題の出し合いで勝負していました。英単語や漢字はくり返しノートに書いていました。数学はひたすら問題を解いていました。

～赤池 T の場合～

授業中は教科担任の先生が口にする大切なワードを復唱し、記憶しようと努力していました。授業ノートは、先生の話に集中しすぎて雑になってしまったことが気に入らず、社会・理科・英語はルーズリーフ⇒キャンパスノートに写し、整理していました。国語や英語の単語テストなどに向けては、学校から帰ったあと、寝る前、朝起きたあとなど細かく分けて勉強するようにしていました。定期テスト前には、とにかく繰り返しワークを解くことをしていました。中3のときの中間テスト前には、社会の公民分野の勉強をしすぎて、夢の中で何度も単語が飛び交っていました。しかし、今はあまり覚えていません。継続して学習することの大切さを実感しています。

三者懇談の際に「勉強の仕方がわからない」という悩みがいくつか出てきました。勉強の仕方は十人十色で、それを自分で見つけていくことが大切なのだと思います。学年の先生方に中学時代にどんな勉強方法で学習していたのかを聞いてみました。ちょっとでも「やってみようかな」と思うものがあればチャレンジです!!

ぶっどれ

田富中第2学年 学年通信

～青学年全員の挑戦譚～

2.7.20 (Wed)

俳句にしてみました

文責：佐野 亮祐 (14)

変わった！そんな自分に挑む夏

～深澤 T の場合～

日常：授業を大切にしました。ノートをとるときには、先生が黒板に書いたことに加えて、口頭で言っていたことを書きこむようにしていました。家庭学習では、復習に重点をおいていました。

テスト前：はじめにノートを一冊用意。ワークやプリントの問題の答えは（教科関係なく）すべてそのノートに書きました。できるまで繰り返し解きました。選択肢の問題も、記述で答えるようにしていました。一冊のノートに書きためることで、どのくらい取り組んだのか、可視化できるので「これだけやったんだ」という自信につながりました。ちょっと大げさですが、「できるまで100回、できてから100回」の気持ちで取り組みました。

～小林 T の場合～

日常：苦手なものや自分に足りないものを中心に勉強しました。苦手だった数学では、符号間違いなどの単純なミスが多かったので、ノートにひたすら計算問題を繰り返し解き、問題に慣れるようにしました。また英語では、教科書の最後の方に載っている単語一覧を見て、上から順に10個ずつ覚える→テストを週1で行いました。間違えたら発音しながら5回ずつ書いていました。国語に関しては、国語に限らずどんな文章においても、できるだけひらがなを少なく、漢字を使った文章になるようにしていました。ひらがなの多い文章を書くことがとても幼稚だと感じていたので、わからない漢字は辞書やパソコンなどで調べるようにしました。

テスト前：ワークを最低3回はやりました。1回目…自力で解く、解説を見ながら○付け・直し。2回目…間違えた問題・勘で正解だった問題だけに絞って解き直し。3回目以降…間違えた問題をひたすら繰り返し解く。という流れでやりました。また、たとえその問題が正解だったとしても、問題文や選択肢などでよくわかっていない用語や単語が出たら調べるようにしていました。例えば、「Q.本能寺の変で倒されたのは誰か。 選択肢. ①織田信長 ②徳川家康③武田信玄④伊達政宗」の問題が正解だったとします。しかし、伊達政宗をよく知らない、本能寺の変は何年の出来事だっけ？→調べよう！といった具合です。教科書や授業ノート（プリント）、資料集を活用して調べました。これらをするには、何よりもうまく時間をつかうことが重要だったので、テスト範囲が出される前からコツコツ進めていきました。

～小池 T の場合～

日常とにかく授業をしっかりと聴くこと。わからないところは友達や先生にお願いをして説明を詳しくしてもらいました。あとはどんな状態でも「毎日机に向かう」ことを習慣化していました。授業は予習をする余裕はなかったので、復習を行っていました。

テスト前まずはテスト範囲を確認して、計画をしっかりと立てました。この際に余裕を持って計画づくりをしました。体調が悪くなったり、急な用事が入ったりすることを考慮してです。ワークを何回もやりました。その際に一度目は全部解きます。その答え合わせの際に、実力でできたものは○、ある程度できたものは△、全然歯が立たなかったものは×というように印をつけました。二度目は○がついているものはやりません。時間が足りないからです。というように、時間は限られているので、いかに効率よくやるか、ということに重点を置いていました。

～太田 T の場合～

日常授業をしっかりと聞く、ノートをしっかりとることは欠かしませんでした。細かな理屈はその時に覚えられなくても、人名や用語だけは授業の中で何とか覚えようと頭の中で繰り返しつぶやいていたと思います。授業の中である程度覚えられるとテスト勉強がとても楽に感じたことを覚えています。

テスト前ワークを何回も解きなおしました。ワーク 1 回目は自分にとってわかる問題、わからない問題を見分ける時間、2 回目以降は 1 回目で分からなかった問題に取り組み続ける時間です。どうしてもわからない問題は解説を読み込み、友達に説明することができるようまで覚えようとしていました。用語は自分でノートにまとめたり、単語帳を作ったりするのがおすすめです。わからないものをピックアップして作るわけですから、自分専用の勉強道具になるし、何より作ってる最中に結構覚えられます。テスト勉強に充てられる時間は有限なので、わかる問題はそこそこに、わからない問題にいかにか時間を充てられるかがカギだと思います。

～塚田 T の場合～

日常：授業中はノートを取りました。黒板を写しながら、先生が言ったことで大事なこと（意外と大切なことを書くよりも話す先生が多かったので）を書き加えていたと思います。きれいに書くというより、大事だと思うことを漏らさないようにしていたと思います。あとは、「なんで？」、「なんでそうなるの？」を解決するようにしていました。

テスト前：課題を終わらせることの他に、授業ノートを見直してからまとめ直していました。やはり、意識したことは「なんでそうなるのか？」を解決することでした。あとは、友達と一問一答みたいなことをやってました。クイズにするとけっこう覚えるし、問題を出すことも勉強になりましたよ。わからないとつまらないですが、わかると気持ちいいというのが勉強だったように思います。